

## IV. 午後の部

### 1. 開会挨拶

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 会長 客野 尚志

皆さんこんにちは。今日はよろしくお祈いします。午前中からご一緒させていただいた方もたくさんいらっしゃると思いますが、このフォーラムも6度目で、回を重ねるごとに人が増えてきて本当に嬉しく思っております。特に今年は高校生の方もいらっしゃいますし、留学生の方もたくさんいらっしゃって、行きのバスなんていろんな言葉が飛び交って交際色豊かで楽しかった、というような環境の中でやっていきます。

このフォーラムの目的は、一つ先ほどもおっしゃったように丹波篠山で活動している学生さんたち、大学生がそれぞれのフィールドを持っていると思うのですが、なかなかお互いにやっていることを知らないということがあるので自分の活動を紹介し合おうということが1つ。それからもう1つは、隣でやっていることを面白そうだなと思ってお互いに情報交換しながら、何か連携して新しいことを始められないかなといった種を撒いてみようというのが1つです。今日はそんな形で皆さんに交流していただいて次に繋がる種を1つでも2つでも見付けていただければ非常に嬉しく思います。

今日午前中ですね、私は皆さんといっしょに前山地区という去年水害がひどかったところに行きました。歩きながらちょっと思い出したのですが、私事なのですが、12月にこの地区にボランティアに行ったんです。そのときに、私は泥掻きするものだと思って行ったのですが、泥掻きもちょっとはしたのですが、行ってお願いされた作業の1つが、家の裏山の竹を切って欲しいって言われたんですね。なぜかというと、竹っていうのはご存じのとおり放っておくとどんどん浸食してきて家を壊してしまいます。普段は住民の方が住まれているら定期的に切って竹が来ないようにされているらしいのですが、水害で家が潰れて避難されていて、もう竹も切りに来ることができないから僕らのために切ってくれと頼ました。その時ふと思ったのは、丹波とか篠山の自然とか景色とか、歴史的な街並みそういったものを含めてすべて、人々の日々の目に見えない、地味な営みによって育てられていて、そういう営みみたいなものをですね、もしかしたら少子高齢化とか地域の衰退といったかたちで、少し危険にさらされているのではないかというふうに思います。その中で大学とか学生の若い力で何かできることはないのかなということを考えてもらって、そんなことのヒントを今日のフォーラムで見付けることができればと思います。皆さんの知恵、アイデア、企画など楽しみにしておりますので、今日は1日よろしくお祈いいたします。

## 2. 主催者挨拶

丹波県民局副局長 酒井 芳朗

皆さんこんにちは。丹波県民局の酒井と申します。本日は大学生の皆さん、地域団体の皆さん、また高校生の皆さん、110名を超える皆さんにお集まりいただきまして、丹波地域の大学連携フォーラムにご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、地域団体の皆様方には日頃、学生の活動に支援をいただきましてありがとうございます。

私普段大学生の方を前にあまり喋ることがありませんので、ちょっと普段と違った感じを受けておりますけれど、先ほど客野先生もおっしゃいましたようにこの大学連携フォーラムは今年で6回目を迎えております。丹波県民局と篠山市、丹波市と共同で学生さん方の活動を支援させていただいておりますけれど、今年度は今までで最大の8団体まで活動が広がってきております。それに加えまして本庁、県庁の方で今日もお越しいただいている高橋地域振興課長さんのところが所管されております事業でも、5団体の方に活動いただいております、合計13団体の方々に丹波地域各地で活動していただいております。ご承知のとおり丹波地域は大学がない地域でありますので、大学生の方が地域の祭りでいきいきと活動していただいている姿を見ますと、大変心強く、頼もしく思っているところです。

丹波地域は自然が豊かで、人と人との温かいつながりが色濃く残っている地域です。皆さんが丹波に来られて、地域の方々といっしょに活動される中で、人と人とのつながりの良さとか、また温もり、そういったものを実感していただいているのではないかと考えております。普段学生の皆さんは同世代との付き合いが中心になりますけれど、丹波地域にお越しただきましますと、お父さんの世代の方や、さらにおじいちゃん、おばあちゃんといった世代の方ともいっしょに活動していただくことになりますので、そうした活動を通じまして、地域の方と一緒活動することの楽しさや学びもいろいろ多いのではないかと思います。そういった経験がこれから社会での活動、また家庭を持たれたときに役立つのではないかと思います。また皆様方にはですね、この丹波地域の良さを広げていただいて、是非またお友達を誘って丹波地域にお越しただきたいと思っております。この活動は大学を卒業されると終了ということになるかもしれませんが、是非この丹波地域のファンになっていただいて、卒業後もまた彼氏とか彼女を連れてお越しただき、生涯にわたって丹波地域に関わっていただけたらと思います。今日はこの後各活動団体の報告、またフリーディスカッションで日頃思っていることや悩み事について、地域の方と学生の方で交流を深めていただきたいと思います。

また、このフォーラムにご参加いただいております高校生の皆さん、今日はたくさん参加いただいておりますので、丹波地域で活動されている大学生の方の学びや気付きといったことについてですね、視野を広げていただいて、改めて丹波地域の良さに気が付いていただければ有り難いと思っておりますし、また日頃思っている地域の課題について、積極的に発言いただいて楽しく議論していただけたらと思います。

最後になりましたけれど、今日お越しいただいている地域のいろいろな団体の皆様にはこの後学生達の活動についての意見や助言をしていただけたらと、大変有り難く思っております。また、引き続き今後とも地域での活動についてご支援いただくと共に、あたたかく見守っていただきますように、どうかよろしく願いいたします。

今日のフォーラムが参加されている皆様方それぞれにとって有意義な時間となりますことを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。今日はどうかよろしく願いいたします。

### 3. 学生からの地域貢献活動報告

#### (1) 学生団体 Clown

初めまして。僕たちは去年の丹波地域の学生連携フォーラムに参加させてもらったので、初めましてじゃない方も1度聞いてもらった方もいると思うんですけど、今回初めて発表させてもらう方もいると思うので、初めに団体紹介を少しさせていただこうと思います。

まず初めに、いまはClownという名前になっているんですけど、その前にTMP (Tanba Manufacture Project)として活動させていただいたので、その団体のことについて少し話させていただきます。

まず丹波マニュファクチャープロジェクトというのは、丹波で活動をするために作られた団体です。理念としてはもの作りを通じて地域とコミュニティーを作ろうという理念で活動しております。目的は、まず最初に地域活性化につながることで、若い世代、私たちが訪れることで何か地域活性化につながるものがあればいいなという思い、そして学生なので授業とは違い実際の現場で体験することによって社会勉強をしようということ。そして最後に現場の方々、地域の方々などとコミュニケーションを取ることで、社会に出て行く上で必要な力を身に付けようというこの3つの目的のもとに活動していました。

なぜ丹波という地域なのかと言うと、主に2つポイントがあって、まず1つ目は、丹波は自然が多く、農地が多い。そして若者が少なく町全体で若者を呼び込む活動を行っていることで、活動の拠点としてとても良い条件であったということ。そしてもう1つは竹害問題。こういうことを知って木材がとても余っているということで、なにか竹を使って竹害問題を解決するきっかけになればいいなという思いがあって活動を行っていました。そしてその2つを使って町をどんどん活性化させることができればいいなという思いを持って動いていた団体です。

ここからは現団体Clownの話をさせていただきます。スライドにもあるように2014年12月にTMPからClownへと生まれ変わりました。TMPは活動地域が丹波に限られており、ツリーハウス製作を始めとする活動の可能性を考えると全国にも同じような活動をできる土地が多いと思い、Clownへと生まれ変わりました。学生団体Clownは立命館大学の建築都市デザイン学科有志75名により結成されており、代表、副代表、会計を始めとして4つの部署に分かれています。営業部では協賛企業を探したり、他団体との交流を行っています。設計部では複数の設計案を出して、地域の人々と合同講評会で案を決定しています。渉外企画部では完成前イベントや、完成後のイベントなどで地域の方々との交流を深めています。広報部ではSNSやPVを作成するなどして宣伝活動に努めています。

Clownの活動には、「ツリーハウスから始まるつながりの輪」という理念があります。

まず1つ目は「森×人」。これは外に出ることの少ない子供たちにツリーハウスという興味深いものを通し、外に出て自然と触れ合い、自然の大切さを知ってもらおうということを表しています。2つ目は「ツリーハウス×人」。私たち建築学生は机に向かって製図や模型を作ることが多いです。ツリーハウスを作るということを通して、地域の方や工務店の方、企業の方々と関わりを持つことが出来るので、私たちの学生の場合としてということを表しています。3つ目は「ツリーハウス×ツリーハウス」。いまは2つしかないツリーハウスなんですけど、今後たくさんツリーハウスを増やしていこうと思っています。後々はツリーハウスのある地域ごとの交流も開催していこうと考えています。

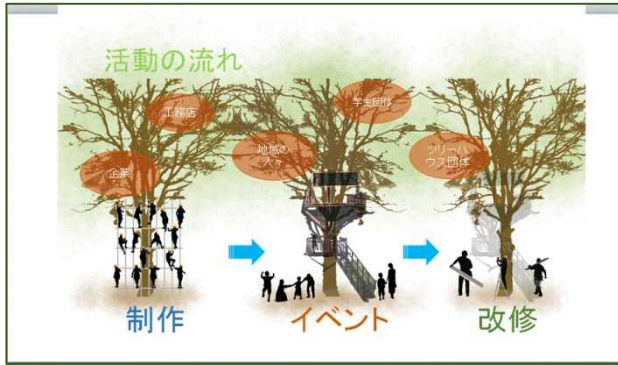
次に私たちClownの活動の流れを紹介したいと思います。まず、デザインが決まったツリーハウスは地域の方や工務店の方の協力もあり、製作を行います。製作後には地域の方々を招待してイベントを行います。イベントというのは製作前や製作中にも行います。これは地域の方々にとってつながりが深い、大切なツリーハウスになるために大切なものとなっております。2年に1度は改修の作業を行います。遊びに来てくださる方々の安全のためにも大切な作業となっております。この3つを一連の流れとし、7年後には解体というところまでやります。何も無いところからツリーハウスを生み出し、最後まで見届けるというこの流れが私たちClownの活動となっております。

続きまして、年表に沿って私たちの活動を説明していきたいと思います。まずTMP ができてから悠々の森というキャンプ場から依頼を受けて、バーベキューコンロの作成を行いました。次にその悠々の森に行って、シンボリックなものを作って欲しいというスタッフさんからの依頼があったので、私たちの活動理念の1つであるツリーハウスというのと同じく、私たちのツリーハウスの作成が始まりまして、9月にまず全体の母体となる床、階段などができました。そして9月に完成したんですけど、「いろは、」という名前の依頼としては、まず「私たちの活動がここから始まる」という意味と、もう一つは「母体」という意味がありまして、優しさとか安心感を与えるという意味でそういう名前になっております。最後に点を付けてあるというのは、私たちの活動から続いていくという意味があります。11月に風の宴というイベントに参加していただいてまして、竹を使って灯籠を作ったりというイベントを行いました。3月にまだ屋根とか階段が出来てなかったのが、今年の2015年の3月に最後に全部できあがりしました。それと同時に3月末に完成イベントを行いました、こちらの方で多くの地域の人たちと交流させていただきました。たくさんのお子さんも来てくださって、とても楽しいイベントになりました。今年の8月にもまた交流イベントとしてサマーフェスティバルというのを開催し、これからは丹波で活動していきたいなと思っています。丹波に続きまして滋賀に2つ目のツリーハウスを建てました。そのツリーハウスがどのようにできていったかというのを簡単に説明していきます。まず今年の4月に滋賀の宇賀野冒険遊び場というところにツリーハウスを建てることになりました。6月には設計講習会というものを行いました。設計講習会というのは地域の人達にツリーハウスのいくつかの案を見せて、どれがいいか投票してもらったり、地域の人の意見を取り入れる大切な場です。7月にはツリーハウスを建てる宇賀野冒険遊び場という敷地で完成前イベントを行いました。ここでは地域の子供達が参加してくれて、流しそうめんを行ったり、地域のマルシェの方に屋台を出していただいたりして、地域の人と触れ合ったり、これから建てるツリーハウスの告知の場にもなりました。9月には2週間の合宿を行ってツリーハウス「あかす」が完成しました。そして来年の4月にはツリーハウスの完成イベントがあるので、是非参加してください。

簡単にですがこれからのClownの活動として、これは終わってしまったんですが12月に関西学生サミットとっていろいろな関西の学生だったりとか全国の学生が集まってそれぞれのイベントの活動をこのような形で発表するという場に参加させていただきました。2月には先ほど紹介に預かりましたようにツリーハウス「いろは、」の竹交換を実施しようと思っていて、その時にはまた丹波に訪れて活動させてもらおうと思っています。3月にはまた滋賀県にツリーハウスを建てたということで、そちらの方にも新しく遊具などを設置して4月2日に完成イベントを行うという流れで現在計画しております。そして2016年の夏にまた3基目のツリーハウスの計画を現在考えておいて、そのツリーハウスができればツリーハウスからツリーハウスという形でどんどん繋がっていきけるんじゃないかと思っています。楽しみにしております。

以上で発表を終わらせてもらいますが、丹波の地域に限らずこれからまた全国になるんですけど、丹波に竹交換といったかたちでこれからも携わらせてもらうので、これからも皆さんに報告できたらなと思っています。ご静聴ありがとうございました。





7

### 兵庫県丹波市での活動

- 2014. 3月 キャンプ場 悠遊の森にてBBQコンロの作成
- 9月 キャンプ場 悠遊の森にてツリーハウスいるは、』の作成
- 11月 キャンプ場 悠遊の森にて行われた『風の宴』に参加
- 2015. 3月 ツリーハウスいるは、』に屋根、階段の設置  
完成イベントの開催
- 8月 Summer Festival IN 丹波 を開催

8

### 滋賀県米原市での活動

- 2015. 4月 敷地が滋賀県米原市『うかの冒険遊び場』に決定
- 6月 設計講評会を行う
- 7月 ツリーハウス 設計案の決定
- 8月 ツリーハウス完成前イベントを開催
- 9月 ツリーハウス『灯巢(あかす)』の完成

設計講評会      完成前イベント

9

### これからのClown

- 2015. 12月 関西学生サミットへの参加
- 2016. 2月 ツリーハウスいるは、』の竹交換の実施
- 3月 うかの冒険遊び場にて遊具の設置

2016年夏！第3基目のツリーハウス制作予定！！

10

ご清聴ありがとうございました。

11

## (2) 丹波の自然有機農法を学ぼう（関西大学）

まず、有機農法の前に私が丹波の方で活動している告知と、関西大学の授業でやらせてもらっている授業について告知をさせていただきます。

まず、先ほどプレゼンしていただいた Clown とすごく近い存在の元々代表さんがやってる作業をお手伝いしているのですが、建物にまったく興味がない古民家のオーナーと、建物をまったく見たことがない学生による古民家のリノベーションについてお話をします。まず丹波市市議会議員の横田親さんという方が丹波市にお家を買ったんですけど、「リノベーションしない？」と立命館大学の4回生の方に声を掛けたところ、興味があるので実際にやってみようということでこの話が進みました。実際に部屋の外見なんですけど、このように築明治3年から建っている建物で、母屋と離れがあるすごく大きなお家です。横田親さんは、人には興味があるのですが建物には興味が無いということで、学生にこのような場を設けようと紹介をさせてもらいました。改修費用が全く無いということで困ったところ、元々家にあったもので使えるものは無いかと調査整理をしていきました。実際に図面化して具体的に何があるか、何が要らないのか選別していきました。たくさんの本があったり使えるものが有りました。

次に改修の形なんですけれど、木材だったり使うものに費用をかけられないので、空き家を解体することで出た廃材を使うことによって、また、古民家に元々有った古い木材を使うことによって味が出るんじゃないかと思いこのような形をとりました。コンセプトは3つあって、「学生の成長の場」、「外国人向けのゲストハウス」、「社会人向けのサードプレイス」。この3つの軸によって進んでいます。ワークショップという名の解体工事を6月頃に行ないました。地域を知らない分からないことがたくさんあると思うので、「地域マップワークショップ」をしました。ここでいろんな所を歩いて自分達で地図を作ることによって地域の方と交流できたりとか、人脈が広がるかなと思いやってきました。リノベーションで使う材料を集めるために解体を行ったり整理を始めました。丹波の空き家を紹介してもらったり解体工事をこのような感じでやっています。

地域行事にも参加して、「学生が丹波でこういふことをしているんだよ」と地域に浸透させるためにお祭りとか氷上町香良というところで古民家の解体をしているのですが、カラオケ大会にも参加しました。

プランとしては、古民家の離れをリノベーションしているのですが、ファクトリーとして古いものをリメイクして価値を生み出す場と、メディアの方や大人の方に来てもらって人と者の物語を記録して発信する場にしようと考えています。カフェやギャラリーにして人が集まる場にしていこうと考えています。

古民家のリノベーションはこのあたりにして、授業でやっていることなんですけど、私たちが野菜を植えて商品化していくことを留学生の方とやっているんですけど、私達のチームは大根を育てています。育てた大根をオープン等で揚げてお菓子になるように試行錯誤している段階です。パッケージにも凝っていてターゲットを丹波の専業主婦にしているので、これからどれだけ知名度が上がるのか今後、来週以降からアンケートを丹波と関西大学の学生にとっていこうと思っているので、よろしくをお願いします。

建物に全く興味がない古民家オーナー  
と  
建物を全くいじったことのない学生  
による  
古民家リノベーション



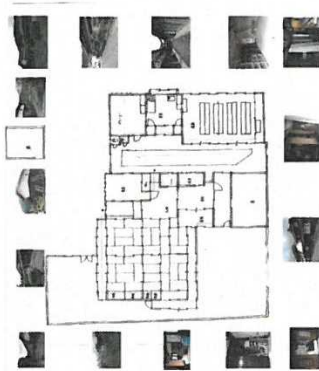
はじまり

家買ったんやけど、リノベーションしない？



人にはすごく興味があるけど、  
建物には全く興味がない  
建物壊れてもいいから  
思いっきり好きなようにやって！！  
でも、……

調査・整理



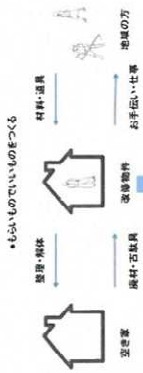
改修費用がない！！







### 改修のカタチ



古いものに価値を生み出す  
古民家の価値を上げる

### コンセプト

- 学生の成長の場
- 外国人向けゲストハウス
- 社会人のサードプレイス

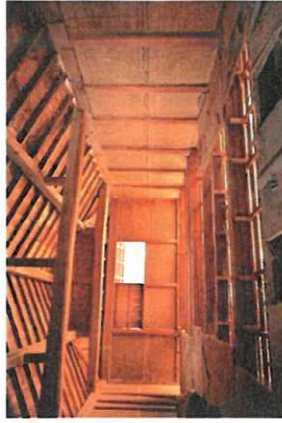
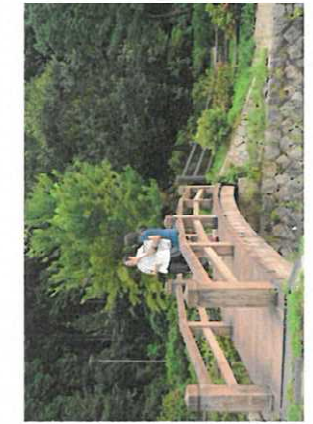


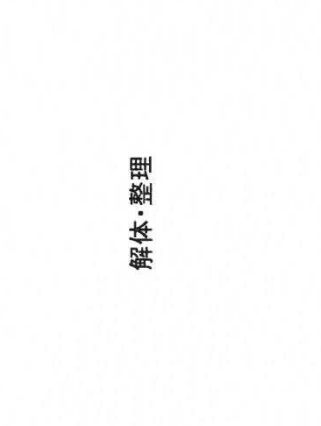
人が集まり、新しい価値が生まれる場所

### ワークショップ



### 地域MAPワークショップ





解体・整理

## 地域行事



## プラン

フックロー  
フックローのマイク、伝言を  
はじめます

フックロー  
フックローに集まる人、物の動員  
を促し、開催する

フックロー  
フックローが集まる場所  
人、物が集まる場所



「丹波の自然有機農法を学ぼう」の代表をしている池澤と申します。僕たちの発表概要について、この団体についてまず説明させていただいて、活動報告、今後の活動について説明させていただこうと思います。

授業目的なんですけど、自然有機農法を学び、丹波の地で育てたお米、丹波の水を使って創業 300 年を迎える奥丹波、山名酒造にて日本酒を造るということを見せていただきました。丹波の地域の人達と信頼関係を築き、長年培った丹波の農作の知恵を共有させていただくということがこの授業の目的となっています。構成としましては、先ほどの説明でもありましたように授業がベースとなっております。基本的に 4 名の先生で回っています。学部の学生 50 名以上で行っています。日本の学生もいますが留学生が大半を占めております。連携している地域団体について、丹波市有機農業研究会と連携させていただいております。活動内容につきましては、丹波市の市島地区でやらせていただきます。

活動内容といたしましては、地域の人と連携をすること。写真の方なんですけど、1 番左の方に今朝発表で会ってもらった太田さんと、山名酒造と連携させてもらっています。活動内容は、有機栽培の安心、安全を次世代に繋ぐということと、有機栽培作物の価値を伝えること、残留農薬の健康に及ぼす被害を考えるということで、次は第 6 次産業としての発展・展開をしていこうと。ユニークさはこの授業では ICT を活用しているということです。

それといろんな大学・地域の人とつながっている。そして留学生が多いこと。グローバルな観点があるといった点がユニークな点として挙げられます。

次は活動報告の方に入らせていただこうと思います。これは田植えのときの写真です。学生がすごくいい笑顔で田植えしてくれました。このとき留学生の中にも田植えが初めてだと言う子もいましたし、日本人学生でも米なんか育てたことないと言う学生もいました。この活動に共感を持ってくれた関西大学の理事長がわざわざ丹波の市島地区まで出向いて視察というかたちで訪れていただきました。次に秋になりますがみんなで稲刈りしました。有機自然農法だったので量は少なかったんですけど、良い質のものができたんじゃないかと思います。そして自然有機農法の研修会。今日午前中に行ったようなことをちょっと深掘りしたワークとかが行ないました。

最後の報告なんですけど、酒蔵研修会。実際に山名酒造さんに説明いただいて、酒蔵はこうだよと。こちらの写真は酒蔵の中なんですけど、あまり日頃入ることのできない場所まで見学させていただきました。山名酒造さんのところは昔からのやり方、伝統的なやり方を貫いているというところが特徴です。実際に米を蒸らしてから持っていくまでに走って、そこに走るための台などいろいろなものを見せていただきました。いい勉強になりました。

最後に今後の活動についてご説明します。いまとりあえずお米を玄米から白米にして蒸すところまでいったかなというところですよ。実際に 12 月頃、今年の年末ですね。学生何名かが実際に仕込みの方に携わります。それができ次第、学生が作ったラベルを瓶に貼っていこうと思います。

これで丹波有機農法の発表を終わります。ありがとうございました。



### 1.5.ユニークさ

- ICT (インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディアなど) をフル活用
- 様々な学内外のステークホルダー (教員、職員、地域の企業、地域の農業従事者) が関わっている
- グローバルな観点： 本学の学生と留学生がいっしょにチームでプロジェクト・ラーニングで有機栽培について取り組む

### 2.1.活動報告：田植え



### 2.2.活動報告：関西大学理事長の丹波市島地区への訪問



### 2.3.活動報告：稲刈り



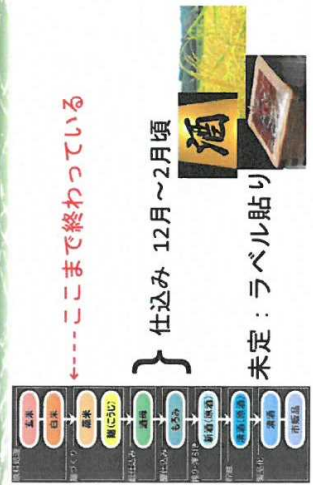
### 2.4.活動報告：自然有機農法研修会



### 2.5.活動報告：酒蔵研修会



### 3.今後の活動について



ご静聴ありがとうございました。  
 平成27年度  
 自然有機農法を学ぼう  
 フロント

### (3) 学生団体ミライの輪（神戸親和女子大学）

みなさんはじめまして。学生団体ミライの輪の衣川と申します。学生団体ミライの輪の団体について簡単に説明させていただきます。

ミライの輪は神戸親和女子大学と甲南大学、神戸学院大学の3大学から成り立っている団体です。この丹波市久下地区で地域活性化に協力できたらと思い、この春から活動しております。

活動についてですが、私たちの久下地区、丹波市山南町での活動の目的というのが、久下地区の魅力をこのように広げていきたいということ、久下の新しい地域ブランドを作りたいというのを目標にしておりまして、月に1度程度、地域に足を運んで活動させていただいております。今日は1番最近あったイベント「久下カフェ」のお話をしたいと思います。

「久下カフェ」というのは何のためにしたかといいますと、まずみなさん田舎に足を運ばれて、「なんにも無いな」と思われることとかあると思うんですけど、そういった客観的なイメージとかだけではなくて、実際にカフェで地元の方とお話をして、地元の方が内に秘めている地域に対する不満であったり不安であったり、そういった悩みを気軽に聞き出すためのイベントがこの久下カフェというものでした。午前の部と午後の部に分かれて、若い世代、子供たちから高齢者の方々まで触れ合えるようにプログラムを組みました。オープンに当たっては、久下自治振興会の方々と2回ほどの打ち合わせをさせていただいて、後は電話でやり取りをして、私たちだけでの準備、カフェの備品の買い出しであったりゲームを手作りで作ったりというのを学生だけでさせていただきました。当日は朝から久下に行って朝から準備して、実際にオープンする時に、久下地区の「おくどさん」というおばあさんたちがやってるカフェといいますか、高齢者の方々、女性の方々が月に3回ほど地域でお昼ご飯、朝ご飯をお出ししている会があるんですけど、その方達が私たちの昼食の準備を既に始めてくださっていて、そちらの方達と挨拶をして、11時に久下カフェがオープンしました。こんな感じでいっしょにお話ししたり、いっしょに昼食の準備をしたりしながらいろいろ地域のことをたくさんお話を聞かせていただきました。午後の部は子供たち小中学生5名と一緒にゲームをしました。今回久下地区にチラシを配るのがちょっと遅れてしまって、参加者が思ったよりも少なかったんですけど、来てくださった子供達はみんな本当に楽しんでくれたと思います。あとはこのゲームが終わった後に反省会で、当日のカフェの反省点と今後の活動についての話し合いをしました。

今後の活動ですが、これちょっと資料を作ったのが古いといいますか、ちょっと前で、今月に入ってからまた久下自治振興会の方々とお話をして、今後先ほどご紹介した「おくどさん」の方達が、何かお弁当といいますか、押し寿司を作ろうかと、いうお話に今なっていて、今後はそれに力を込めていって、その押し寿司がもし上手くいけば、これで新しい久下のブランド、地域ブランドができるんじゃないかな、と楽しみにしております。

以上で終わります。ありがとうございました。

## <学生団体ミライの輪 発表資料>

**久下地区Project**  
**久下地区 × 神戸の三大学**  
 12/12(土) 篠山市民センター  
 学生団体ミライの輪  
 神戸親和女子大学3年 栁谷・衣川

1

**団体紹介**  
**学生団体ミライの輪**

① 神戸親和女子大学・甲南大学・神戸学院大学の三大学から計34名  
 ② 地域の人々・企業 × 大学  
 ③ 久下地区を中心に月に1回を目安として地域活動を行っている

2

**活動について**

**その1** 久下地区の魅力を発信していく  
 → 動画を撮影して配信  
 → 久下にある空き家を再利用

**その2** 久下地区の人々の本音を探る  
 → カフェをオープンして会話の中から本音を聞き出す

今回はカフェの詳細を紹介させていただきます！

3

**“KUGE CAFÉ”とは？**

11/8(日) 久下自治会館にて  
 ターゲット → **久下地区に住むすべての方**  
 久下に住む方と触れ合いながら、久下の方が内に秘めている地域に対する思いを聞き出す。久下の方と**共感を得る**ことで、地域に足りないものを追及する。

<b>11:00～13:00</b> お茶やコーヒーなどのソフトドリンクやお菓子の提供をし「学生と会話できるカフェ」を楽しんでもらう	<b>14:00～16:00</b> 景品付きの手作りゲーム数種類や手遊び等を通して子どもたちと触れ合う
---	---

4

**オープンにあたって**

① 2回ほど久下自治振興会の方と打ち合わせ  
 ② 学生同士のミーティング  
 ③ 子ども向けゲームの作成  
 ④ カフェ備品の買い出し

→ 2か月以上前から準備をしてきました！

5

**“KUGE CAFÉ” 10:00～13:00**

参加者 → ミライの輪所属学生7名・教員2名

**10:00** 久下自治会館到着。準備開始  
 カフェ「おくどさん」メンバーとご挨拶

**11:00** 久下カフェオープン！  
 おくどさんの昼食をいただきながら、老人会の方々とお話



6

**“KUGE CAFÉ” 14:00～16:15**

**14:00** 別室移動。子供向けゲーム大会開催  
 小中学生計5名と一緒にゲーム！

**15:15** 反省会  
 久下の方々と、今後の活動の進め方についてディスカッション

**16:15** 解散



7

**今後の久下での活動**

**久下に住む人を増やすために！**

① 森林を守るための人手不足を解決  
 ② 活動的な高齢者の方々と協力し地域活動  
 ③ 久下地区で開催される婚活イベント  
 ④ 久下ブランドの開発  
 ⑤ 学生主体の若者向けイベント

8

ご清聴ありがとうございました！

9



#### (4) 神戸山手大学 歴史文化ツーリズムゼミ

こんにちは。神戸山手大学歴史文化ツーリズムゼミと申します。これから私たちの活動報告を始めます。よろしくお願いいたします。

私たちは篠山市福住地区を拠点に活動しております。なぜ福住かというと、福住地区は旧街道沿いの街並みは 2012 年 12 月 28 日に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、地域住民の方も観光について考え始めているように会話の中で感じました。また、古民家を利用した宿泊施設が、重伝建築物群に制定されてから次々と開業されています。私たちは移住を視野にした福住らしい滞在型観光のかたちもあるのではないかと思います、活動を始めました。

次に、活動内容についてです。私たちは7月から活動を始め、様々なイベントに参加しました。多くの地域の方々との交流を主に、活動させていただいております。主な活動としては7月：里地里山問題研究所、通称「さともん」とのジビエバーベキュー大会、そこで私たちは初めて鹿肉の試食をしました。次に8月：篠山祭りでの屋台の出店。そのときに福住の好きなところについて地域の方々にインタビューしました。9月：「森の風土」での合宿の際、市役所や小学校、高校や地域の方々との懇談会を開催しました。10月、11月には大学祭で鹿焼き肉井の提供をするために、地域の方々と意見の交換会をしました。8月から11月までの活動を通し、福住の獣害被害、田舎の良さや不便さ、主に人口と交通面、滞在型観光の難しさ、ジビエの魅力という6つの課題が分かりました。

私たちの重要な目的の1つであるジビエと獣害についての活動を詳しくお話したいと思います。

丹波篠山での取り組みを知るために、私たちは株式会社丹波姫もみじさんを訪問しました。食肉用を始めとして革製品や工芸品、漢方薬の原料としての鹿肉の利活用を目指していること、しかし狩猟規制や狩猟費の減少などで野生鳥獣が増えていることが分かりました。また、鹿肉のE型感染ウイルスの保有率は2.6%ととても低く清潔であることも知ることが出来ました。そして11月の大学祭では、丹波篠山で採れた鹿肉とお米を使った焼き肉井を提供しました。鹿肉のイメージについてアンケートを行ったところ、食べる前には「固そう」「臭みがありそう」といったマイナスのイメージが強く、以前食べたことがある方も固さや臭みを気にしていらっしやいました。ですが今回焼き肉井を食べていただくと、「柔らかくて食べやすい」、「臭みが無い」などとお答えいただき、おいしく食べることができると思いました。また、主婦の方々からは「どこで買えるんですか？子供に食べさせたい。」という質問も多く頂きました。このように、プロセス次第で都市の一般家庭でも需要が広がる可能性があることが分かりました。

今後の方向性としては、活動を通し知識さえあればおいしく食べられることを地域住民の方と一っしょに実感し学ぶことができましたが、他の地域でもジビエ料理に力を入れており、人々を引きつけるための差異化が難しいのではないかと、との意見が出ました。そこで私たちは新たな魅力がないかと考え、福住のお米が大学祭でおいしいと好評だったことに注目しました。私たちも福住で活動していく中で、多くの農家の方から福住で採れた新鮮な食材を頂き食べる機会があり、普段食べているものよりおいしく、驚きました。また、福住の住民の方もこの農作物はおいしいと自信を持っています。既に福住では小学生以下の子供を対象として4月から11月まで月1回「福住の里 農業小学校」という農業体験プログラムがあり、この企画は好評だそうです。そこで私たちは「わだ屋」、「やなぎ」、「森の風土」を滞在拠点にした短期滞在を複数回組み合わせることで完成する滞在型の農業観光プランを提案中です。

福住地区だからできるおいしい農作物を都市部の人達にも知ってもらい、実際に体験を通し福住の魅力を感じていただけるような場をこれからも活動を通し、発信していきたいと思っております。ご静聴ありがとうございました。

## <神戸山手大学歴史文化ツーリズムゼミ 発表資料>

### 1. 活動地区

私たち、神戸山手大学歴史文化ツーリズムゼミ（3・4回生：8名）は伝統的建造物群保存地区に指定されている篠山市福住地区（福住下・木穴木・福住中・福住上・川原・安口西・安口東の8集落）を拠点に活動している。福住地区は空き家が年々増加し人口の減少が問題とされており、今年度でこの福住地区の小学校は児童不足のため閉校になることが決まっている。そこで私たちは、“観光”を切口とした活性化をゼミの研究テーマとし、福住地区を含めた篠山市での活動を月1～2回、大学内で話し合いを週1回行い、地域の方々との交流を深めてきた。

【連携団体】森の風土（福住まちづくり協議会・川原自治会）

株式会社 丹波姫もみじ

さともん 里地里山問題研究所

### 2. 活動の動機

活動メンバーは大学のゼミで歴史文化ツーリズムを専攻しており、今年の5月にゼミでの合宿を伝統的建造物群保存地区（宿場町・農村集落の町並み）に選定された福住地区で行ったことがきっかけで交流が始まった。福住地区の旧街道沿いの町並みは平成24年7月19日に伝建地区に指定、平成24年12月28日に国の重伝建地区に選定され、地域住民の方も観光に対して関心が向き始めている。しかし、福住地区は空き家の増加、人口の減少（人口：1,500人、世帯数：624世帯）という問題を抱えており、住民の方の半分以上は高齢者で若い世代の家族が少ないこともわかってきた。

重伝建地区の保存状況と観光整備について調査に取り掛かった過程で、過疎化の進む中で古民家を一週間貸しの宿泊施設に改修中のところがあるということで、古民家のゲストハウスのオーナーさんに紹介いただいた。ほかにも一ヵ月貸しの古民家“わだ家”もあると知り、移住を視野にした福住らしい滞在型観光の形もあるのではないかと思い、地域の方と一緒に魅力ある福住地区の観光の形を考え、交流をしていきたいと思い活動を始めた。



### 3. 活動の内容・成果

#### ① 「森の風土 見学」

ゲストハウス「やなぎ」に宿泊し、福住地区の古民家についての話を聞き、地域の取り組み、現状、可能性などを考える機会を得た。また、「森の風土」を見学。篠山市内には、外国人観光客も多く訪れているという意見を聞き、Wi-fiの設置の提案をした結果、案が採用されWi-fiの接続が可能になった。



## ② 「さともん(里地里山問題研究所) ジビエバーベキュー」

獣害問題に取り組む里地里山問題研究所の方と獣害の活用について話を伺い、ジビエイベントを通じて獣害関心を持ってもらうことを提案。そこで実際のイベント化に向けて、研究所の方々とジビエ（鹿肉 / 猪肉）バーベキュー試作会を開催し、今後の課題と方向性について話し合いをした。

### 【イベントの目的】

- ・他地域の人を呼び込み獣害に関心を持ってもらう。
- ・地元の食材（米 / 野菜 / 肉）を用いる。
- ・農家の人との交流イベントとする。
- ・獣害問題の現地見学と組み合わせる。

### 【課題】

- ・野菜 / 鹿肉などの提供元の確保。
- ・衛生管理への注意。
- ・費用の設定（参加費と材料費のバランス）。
- ・イベントの PR 方法 など。

⇒今後も検討を進めていく予定



## ③ 「福住納涼祭り」

地域の方々が自分の町の良さをどのように認識しているかを知るために、地域の夏祭りに『綿あめ・カキ氷』を出店し、「福住の好きなところ」インタビューを実施。子どもから年配の方まで幅広い住民の視点での地域の魅力を知ることが出来た。「街並み、野菜、自然」といったわかりやすい魅力だけではなく、「人のやさしさ、仲の良さ、夕暮れ、閉校となる小学校」など、



住んでいる人だからこそ分かる良さも多く挙げられた。そこからは、古い歴史と豊かな自然に満たされた環境で、住民がお互いに顔見知りの間柄で日々交流があり、ことあるごとにお互いに助け合う田舎ならではの緊密なつながりを持つ地域であることがよく伝わってきた。

一方で、人口の減少に伴い小学校も廃校となり、町の将来が危ぶまれることも事実だ。7月25日に行われた福住の伝統的な祭りである「水無月祭り」も見学して話を伺ったが、山鉦に乗る子どもがいないため、孫が京都の舞鶴から通っているというような状況を聞くと、今後の祭の存続にも関わらないかと思われる。祭りに集まった地域の人々から話を伺いながら、その将来にある不確かさに対して外部の私たちはどのように関わることがよいか、という点について、考えさせられた。

歴史的な街並みと農業景観は、そこに生きる人々の生活を反映する鏡のようなものであり、それらを守るためにも、納涼祭りへの参加と住民インタビューで挙げられた福住の良さをどのように維持し、伝えていくかを考えることが必要ではないかと感じた。

#### ④ 「森の風土 合宿」

2泊3日の合宿を行い、農業学校の訪問、農業体験、福住小学校および里山工房くもべを訪問し、夜は地域の方々と交えて鹿肉ジビエを楽しみつつ懇談会をした。

農業学校では地域の農業の特色に加えて、古民家滞在施設「わだ家」と協力して実施している子ども向け農業体験について説明を受けた。私たちの考える滞在型観光との組み合わせを視野に入れて、今後の活動にご協力いただきたいと考えている。また、福住小学校は今年度で廃校となるため、校舎の使い道を検討する必要があるとのことだった。具体的なことはまだ決まっていないので、地域に役立つ活用プランを考えられればと思う。すでに廃校となった校舎を活用して革細工や織物工房を誘致している里山工房くもべは、地域の新たな魅力づくりや住民誘致の視点から参考となった。

夜に行われた地域懇談会では、私たち学生が作った鹿肉の料理を食べていただき、どのように調理すればより美味しくなるのか、アイデアを出し合った。滞在施設「森の風土」は滞在者の自炊が前提となるため、自炊でも楽しめるジビエという視点で考えると、仕入れから調理までの仕組みをきっちり構築しなければならない。さらに鹿肉は獲った後の血抜き処理が重要であるため、地元の猟師も含めた体制も必要である。そのほか、参加者の方々が持ち寄った自身の農園で採れた野菜や鶏肉などを楽しみながら、若者が農村に移住するために必要な条件など活発な意見が飛び交った。小さな地区で交流があるからこそお互いが繋がる可能性を感じることが出来た。



#### ⑤ 「ジビエ料理試作会」

都市部の人々を対象とした鹿肉の PR とイメージ調査を大学祭で実施することとなり、事前に福住で丹波の鹿肉と篠山の新米を使った“鹿肉丼”の試食会を開催し、地域の方々と意見交換を行った。

試作品は煮込み牛丼風と焼肉風の二種類で、どちらも鹿肉の素材の良さを活かせるように、また「森の風土」で初心者が自炊をする際にも挑戦できるように、シンプルな味付けにした。また、あまり火を通し過ぎると硬くなる鹿肉をどのように調理すべきかアイデアを出し合った。

参加者は、鹿肉を好んで食べることはなく、固い・臭みがあるなどのイメージを持っていた。都会よりも鹿とは身近な関係にある地域の人々ですら、鹿肉に対してネガティブなイメージが強いということは驚きだった。今回試作した鹿肉丼を食べてもらったところ、臭みもなく柔らかい、という声が多く、「これなら食べられる」ということで意見が一致した。実際に食べてもらうイベントを開催するというのが、ジビエの認識拡大とそれを利用した地域の活性化に一番近づくという意見も出た。焼肉風のほうが美味しいが焼き目はつけてほしいという意見が多かったため、大学祭では鉄板で焼いてご飯に乗せたものを提供することにした。



## ⑥ 「鹿肉加工の現状と大学祭での鹿肉イメージ調査」

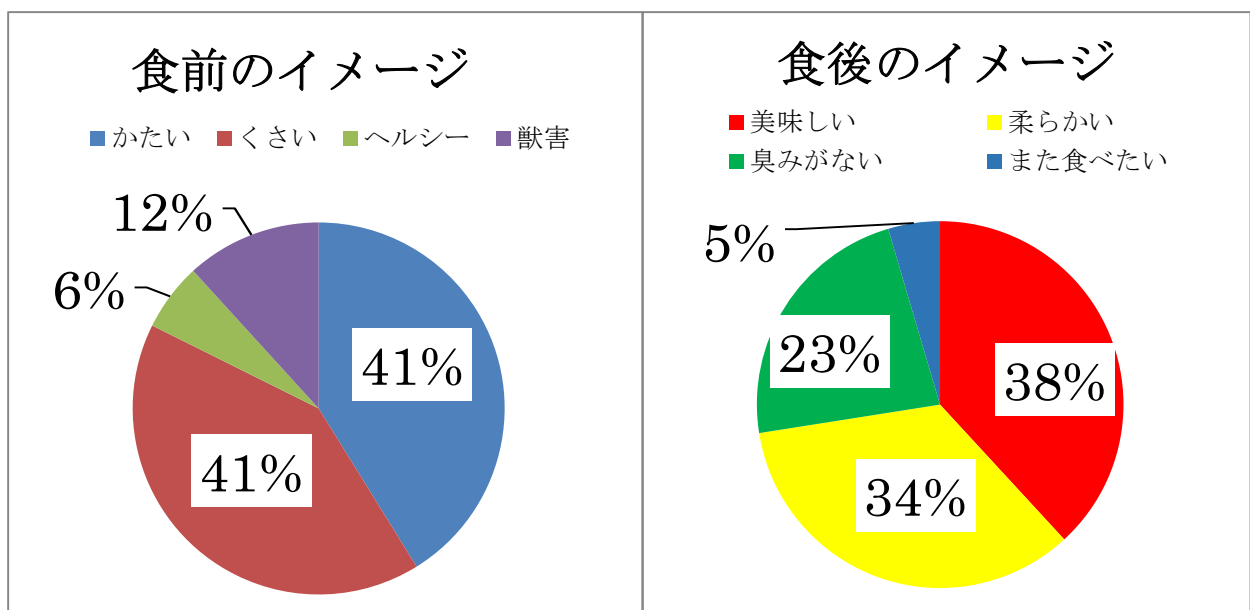
丹波や篠山の農村の課題を考えていく中で、獣害とジビエは注目すべき点であると考えている。「ジビエ」とは、狩りで捕った野生の鳥や獣の食肉を意味するフランス語である。昔は貴族が狩りの獲物の自慢として晚餐にだすような貴重なものであり、フランス料理界では高級食材として重宝されてきた。このように高級食材として人気のあったジビエだが、近年の野生鳥獣の増加は農林業や自然環境にとって大きな問題点になっている。

こうした状況の下、鹿肉の有効活用の取り組みは全国で進んでいる。たとえば特定非営利活動法人日本ジビエ振興協議会では、狩猟や有害捕獲されたシカやイノシシを野山に廃棄することなく食肉としての有効活用を図り、地域及び大都市圏の飲食店でのジビエ料理の提供、加工品開発と販売、環境保全に関わる取り組みなどを通じて、鳥獣被害対策や地域活性化への貢献を行っている。

丹波および篠山地域の取り組みを知るために、株式会社丹波姫もみじを訪れ、シカや鹿肉およびその処理方法などの話を伺った。姫もみじでは年間 1,000 頭を目安に、食肉用を始め革製品や工芸品、ドッグフードへの加工や土壌改良剤や肥料としての販売、さらには漢方薬の原料としての利活用を目指している。しかし保護政策による狩猟規制や猟師の減少などによって野生鳥獣は増えていることが分かった。また、鹿肉の E 型肝炎ウイルスの保有率は 2.6% と低く、豚肉の 80%、猪肉の 27% に比べて清潔であることも知った。ところが地元では鹿肉よりも猪肉を食べることが多く、鹿肉は積極的に狩猟の対象としたり食材としたりすることはないということであった。

また、鹿肉に対するイメージをさらに調査するために、先日の大学祭で姫もみじより仕入れた丹波産の鹿肉、お米・玉ねぎを使用した焼肉丼を提供した。2 日間にわたって行われた大学祭では、珍しさも手伝ってか大盛況であり、学生だけではなく地域の方にも大変おいしいと好評であった。鹿肉についてのアンケートの結果は、食べる前は「固そう」「臭みがありそう」などといったマイナスのイメージが強く、以前食べたことがあるという方もかたさや臭みを気にしている方が多いようである。

しかし今回の焼肉丼の食後には「柔らかくて食べやすい」「思っていたよりも臭みがなくて美味しい」などのご意見をいただいた。また鹿肉だけではなくお米と玉ねぎも好評だった。



#### 4. これまでの活動で得られたもの・自慢できること

- 「森の風土」のオープン準備への協力を通して、約半年にわたって福住でのイベント参加や意見交換を重ねることで、地域の方々と交流を深めることができた。「森の風土」オープン後には、移住者および移住検討者を含めたジビエ試食兼交流会を開催し、地域の視点と外部からの視点の双方向からの意見交換を行うことができた。参加者からはとても楽しく有意義な機会だったから定期的に開催してほしいという声をいただいた。
- ジビエ料理の調査と試作を進めていく過程で、最初は抵抗があった鹿肉を自分たちでしっかり PR でき、福住の方をはじめ神戸の方にも鹿肉ジビエの良いイメージを伝えることができた。特に大学祭に来ていた神戸の主婦層からは、「子どもに食べさせたい」「どこで購入できるのか」などの声をいただいた。こうした興味関心を篠山に引き付ける工夫を今後考えたい。
- 実際に地域を訪れ、地域の人々と対話を繰り返す過程で、自分たちの視点や行動力などが以前に比べて積極的になり、活性化するためにはどのような提案、対策が必要なのか自分たちなりのアイデアが明確になった。



#### 5. 活動で苦労した点

- 地域の方が考える福住の活性化（若い住民を増やす）と、私たちが考えること（観光交流：農業体験＋古民家宿泊など）をどのような方向性で組み合わせていくのかが難しい。
- 移住してきた方や若者の移住を増やそうという方のアイデア（シェアハウスなど）は出ているのに、それをどう活かしていくのかという点については、昔から住んでいる方はあまり前向きではなく、保守的になっている部分があるように感じた。
- 事実上「空き家」になっているが、それらは容易に貸したり売ったりされないという事情があるということがわかった。福住地区の魅力の重要な要素である古い町並みを残すうえで、空き家の活用は不可欠となると思われるが、そうした事情をどのように解決するかが困難であり、長期的な視点での活動にとって課題となると思われる。
- 交通手段が車（バスは1時間に1本？）が主、駅からも遠く不便である。  
⇒ 貸し出し自転車の設置。

#### 6. 活動の結果、今後の方向性

福住地区は獣害の被害が大きいことを学び、それを利活用できないかと考え、里地里山問題研究所の方と一緒にジビエ BBQ のイベント化の試作会、大学祭での鹿焼肉丼の販売を行ってきた。その中で先ほども書いたとおり、地元住民の方もジビエに対して“臭い・固い”というイメージを持っていることを知った。この活動を通し、知識さえあれば美味しく食べられることを地域住民の方と一緒に実感し学ぶことが出来たが、他の地域でもジビエ料理に力を入れており、人々を惹きつけるための差異化が難しいのではないかという意見が出た。

福住の新たな魅力はないかと考えていく中で、大学祭で使用した福住の新米が挙がった。理由として、大学祭で鹿肉をメインに販売していたが、鹿焼肉丼を購入していただいたお客様からはお米も美味しいという意見を多くいただいたことがきっかけである。また、私たち自身も福住で活動していく中で、多くの農家の方から福住で採れた食材を頂き食べる機会があった。実際に食

べてみると、普段食べているものとは違い驚いた。住民の皆さんも「ここの農作物は美味しい」と自信を持っている。

福住では、福住や都市部の小学生以下の子どもを対象として、4月から11月まで月1回行われる「福の里農業小学校」という農業体験プログラムを実施している。この企画は好評で定員いっぱいである。そこで私たちは、一ヵ月貸しの「わだ家」、ゲストハウスの「やなぎ」、そして1週間貸しの「森の風土」を滞在拠点にした、短期滞在を複数回組み合わせることで完成する滞在型の農業観光プランを提案中である。重伝建地区の魅力ある町並みの中で、この福住地区だからこそできる美味しい農作物を、都市部の人たちに知ってもらい実際に体験を通し福住の魅力を感じていただける場を作れるよう、これからも活動していきたいと考えている。

**神戸山手大学  
歴史文化ツーリズムゼミ**

平成27年度 丹波地域大学連携フォーラム

1

**活動地域**

・ 篠山市福住地区(人口1500人:624世帯)  
篠山市統計書 平成25年度版より



2

**なぜ福住なのか**

重要伝統的建造物群保存地区に指定  
【2012年12月28日選定】

地域住民の方が  
観光について考え始めている

古民家を利用した滞在型宿泊施設の開業  
- 古民家ゲストハウス やなぎ【2012年11月】  
- 貸し住宅 福住わだ家【2013年3月】  
- 森の風土 【2015年8月】

3

**主な活動内容**



4

7月7日	さともん(里地里山問題研究所)とジビエ バーベキュー ・ 獣害への取り組みや活動内容の聞き取り調査 ・ ジビエイベントに向けた鹿肉/猪肉の試食
8月8日	福住納涼祭りへの参加 ・ 出店: 綿菓子/カキ氷 ・ 地域交流/インタビュー(福住の好きなところ)
25日	姫もみじ見学 ・ 畜獣問題と食肉加工の現状聞き取り調査
9月1.2.3日	合宿「森の風土」宿泊 ・ 夜間獣害監視の視察/農業体験/地域懇談会(鹿肉試食) ・ 小学校、高校、市役所 訪問
10月22日	試食会(鹿焼肉丼) ・ 宿泊者向けジビエ提供の検討 ・ 試食アドバイス
11月7.8日	大学祭「鹿焼肉丼」 ・ 鹿肉のPR/アンケート調査 144食完売!

5

**さともん バーベキュー**



ジビエBBQのイベント化に向けた試作会  
⇒ 地元の食材(米/野菜/鹿・猪・鶏肉)だけを使用

6

## 福住納涼祭り



- 屋台の出店「綿あめ・カキ氷」
- “福住の好きなところ”インタビューを実施。



【住民の視点での地域の魅力】  
「街並み、野菜、自然、人のやさしさ、仲の良さ、夕暮れ、閉校となる小学校」

7

## 合宿「森の風土」宿泊



- 夜間獣害監視の視察
- 福住小学校の訪問
- 農業学校の訪問
- 里山工房「くもべ」
- 15名の地域の方と懇談会
- ジビエ試作会



8

## 大学祭の試食会(鹿肉丼)



- 大学祭で提供するジビエの意見交換。(森の風土)
- ジビエの認識拡大とそれを利用した地域の活性化について検討。



9

## 学んだこと・課題

- 獣害被害の現状
- 田舎・良さ・不便さ(人口と交通面)
- 滞在型観光の難しさ
- ジビエの魅力

10

## 株式会社丹波姫もみじ

西日本初の鹿専門加工施設  
食肉、革製品、ドッグフード、漢方薬の加工・販売

○インタビューからわかったこと

- 狩猟規制や猟師の減少で野生鳥獣は増加
- 鹿肉は実は清潔  
E型肝炎ウイルス保有率  
鹿肉2.6%(豚肉80% 猪肉27%)



11

## 大学祭「鹿焼肉丼」

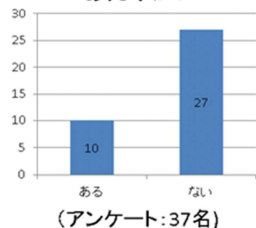


美味しいと好評！！  
100食目標を大幅に超えた  
144食売売！！

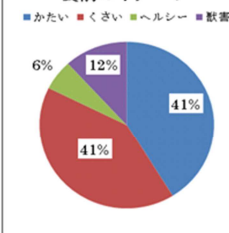
12

## 大学祭でのアンケート調査

鹿肉を食べたことがありますか？



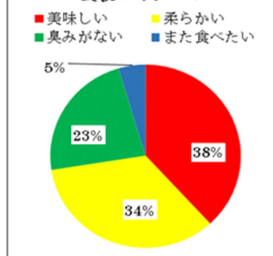
食前のイメージ



13

## 大学祭でのアンケート調査

食後のイメージ



- 柔らかい
- 食べやすい
- くさみが無い
- 甘みを感じる
- 意外とさっぱり
- 思ったより臭みがない
- また食べたい
- お米も美味しい

14



## 今後の方向性

- ジビエ料理での差異化が難しい  
(他の地域にも類似したジビエ料理がある)  
⇒鹿焼肉丼の時に使用した  
**福住産の新米**が好評

- 農業体験と  
滞在型宿泊施設の協力  
(森の風土・わだ家・やなぎ)



15

## 今後の方向性

「福の里農業小学校」  
福住や都市部の小学生以下の子どもを対象に  
月1回の農業体験プログラムを実施している



福住全体にした滞在拠点を、  
1年間の農業体験をするプランを提案中

16



17

## (5) 里山プロモーションチーム（京都大学）

みなさんこんにちは。里山プロモーションチームの衛藤と申します。

まず、私衛藤からは先ほどわざわざ京都からお越しいただいてと紹介していただきましたが、なぜここで、こういった経緯で設立に至ったのかということを中心に簡単に説明をさせていただいた後に、実際、昨年度と今年度を、昨年度から引き続く部分ですね、そのところの活動の具体的な中身については、この後柳瀬君の方からご紹介をしていただきたいと思います。

我々は実は足掛け10年前ぐらいから桑原の地域には授業のワークショップ、「村作りワークショップ」というかたちでずっと関わりを続けておりました。ただ、年に1回ワークショップをするだけで、「地域に貢献ができてるのか」というところがずっと引っかかりとしてありまして、そのあたりをこういった活動を通じて共同で取り組むことで、なにか新しいことができないか。還元するようなことができないかといったところから設立に至っております。それでは映像を見ていただきながら進めたいと思います。

昨年度から引き続きということで、まず1つ目が映像を使った地域の伝統文化の保存であったりとか、プロモーションということで編集、撮影のためにイベントなどに邪魔させていただきながら残していくというようなことを行っています。今ご覧いただいているのは、昨年度から撮って編集しているものですが、地域の70代80代90代の方たちの炭焼きをやっている「あおう会」というグループのものです。もう1つは秋祭りですね。この地域の人達は本当に祭りが大好きというか、すごく大事にされていて、そのお祭りを撮らせていただいたときのものになります。本当は全部で30分ぐらいのものなんですけれど、今回は時間の調整上短くさせていただいております。そしてこうした活動をしているうちに「昔の映像があるんだけど、それをなんとかして復元できないかな」というお話をいただきました。

これが大体25年前の夏祭りの様子なんですけれど、そうした地域文化のデジタルアーカイブみたいなものできないかなと。そしてそこから地域文化をもう1度守っていく。あるいは掘り起こしていくようなことができないかなといったことを行っています。そのきっかけが、地元の有志の方のこんな声でした。「地域の祭りの歌のまわし節を復活したいんや」と。お祭りで歌われている歌があるんですけど、その歌が歌っている人が変わる時に、その歌う人と歌う人の間を繋ぐ、どうしても声の高さだったりとか違ってしまったりと、せっかく祭りでテンション上がっているのに、ちょっと低くなってしまったりということがあるので、それが実は今はもう無くなってしまっていて、それをなんとか復活させられないかな。もしかしたら25年前の祭りの映像だったら多分まわし節が残っているので、復活させられないかな、というお話でした。先程見ていただいたものが、その一部になります。こうしたかたちで見られなくなってしまっていた25年前の映像をデジタル化させていただきつつ、無くなりつつあるような地域文化を維持復活させるための資料になったらいいな、というのが1つです。そしてこれが地元の有志団体で若手の方たち、八日会というメンバーがいるんですけど、その方達の有志が歌の節まわしを復活させられたらいいなという話をいましているところです。4枚目のスライドの下の映像は一緒に皆で見ながらお酒を飲んでいるところの写真になります。

2つ目が伝統食の復活に向けたプロジェクトということで、今年させていただいていました。地域の食イベントへの参加。5枚目のスライド左側がその際に作ったチラシですけども、イベントに参加したり、地域の子供たちにかつての桑原での食生活についてお聞きしながら復活させられたらいいなという話をしておりました。ただ実はこの桑原集落、川が通っているんですけど、その川がコンクリートの3面貼りとかになっていて、かつての食文化というのが実はそのコンクリートで固められているために失われているものもあったりとか、そういうところも分かってきました。今、そちらの内容を新聞としてまとめているところです。

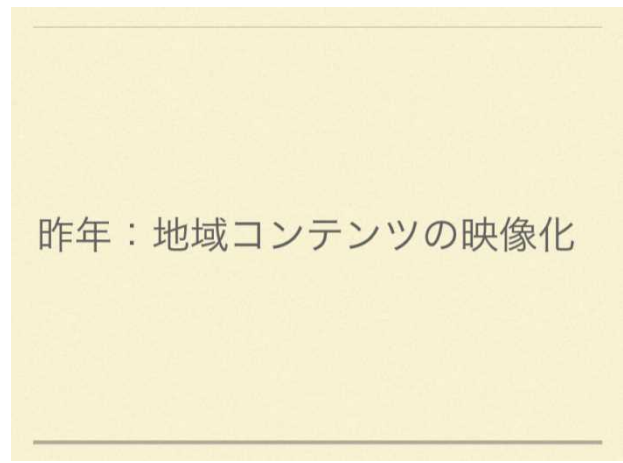
そして最後ですね、一番最初にこの活動は実はワークショップ、授業の方から始まっているという話をしたと思うんですけど、その農村計画学のワークショップ実習で逆に学生の方で企画、運営をさせていただいてというような形に今年はさせていただきました。

ざっくり活動の中間報告みたいな形ですけど、こうした形で地域と大学との連携しながら活動させていただいております。ご静聴ありがとうございました。

<里山プロモーションチーム 発表資料>



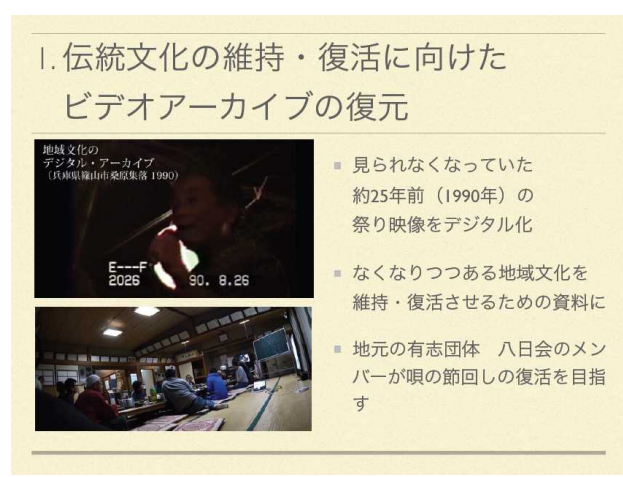
1



2



3



4



5



6

## (6) にしき恋（神戸大学）

僕たちは地域密着型サークル「にしき恋」という名前で活動させていただいている団体です。コンセプトは、「にしきに恋して、みんな来い」というところから、「にしき恋」という名前にさせていただいています。そもそも「にしき恋」がどこで活動しているかというところ、フォーラムレジメの表紙を見ていただきますと「学生団体活動場所」の位置図の3番目、JR 篠山口駅に程近いところで活動しています。篠山口駅までは大阪駅から丹波路快速が直通していてアクセスが非常によく電車でも行けますし、皆で車に乗りあって行ったりします。主な活動内容は、農作業のお手伝いをする「農業ボランティア」、もうひとつは「にしき恋ファーム」といって実際に丹波黒大豆やお米を栽培して収穫物の販売をしたりしています。3つ目は「地域交流」といって、地域イベントの参加に企画。これは小学生との交流であったり、地域のお祭りへの参加を行なっています。

個別の活動を紹介したいと思います。

「農業ボランティア」ですが、発表スライドの写真の設定ミスでボランティアをやっている写真を持ってくるのを忘れたのですが、週末の基本活動、土日に行っています。参加は自由で土曜日、日曜日は、両方参加するときには、協力してくださっている「まちづくり協議会」の施設に泊まることも出来ますし、日帰りで行ったりと皆さんいろんな活動形態でやっております。今年は参加者が増加と書いてありますが、去年は土日で平均4人5人とか、7人、7人の参加で、トータルのメンバーは名義上は80~100人いるかと思いますが、今年は土曜日10人、日曜日10人が参加しています。昨年、おとしは西紀南地区というところでやって参りましたが、今年は新たな農家さんが2、3軒、新に僕たちのボランティアになってくださっています。

次の活動ですが「にしき恋ファーム」といって、お世話になっている農家さんの遊休農地をお借りして、実際に特産品であります丹波黒大豆を自分達で生産して販売までやっております。その目的として栽培で実際にその苦勞を体験するというのと、製品化、これは普通は黒枝豆は束になって出荷されているのですが、サヤだけ挽いでしまってサヤの状態の販売すると低コストになって結果的にたくさん出荷することによって農家さんの利益が上がるのではないかと、いうことを目的に、僕たちも実際やってみて農家さんに勧めようという活動で、自分達も挽いで黒枝豆を出荷しています。黒枝豆の出荷先ですが、この写真は新大阪駅の駅マルシェというところですが、このようなマルシェであったり、お祭りで実際に販売することによって都市部の方々に黒枝豆の魅力をもっと伝えていこうという活動を行っています。そして黒枝豆の販売ですが、大学構内で「ささやま屋」というのをやらせていただいております、「ささやま屋」のなかで学生や教職員に向けた黒枝豆の販売、5番目のスライド右側の写真は神戸大学のフィールドステーションと一緒にやって行なったものですが、篠山味祭りで「枝豆トライアル」というタイムトライアルで、普通に買って帰ってもらうのではなく、お客さんにサヤを挽いていただいて省力化と低コスト化を出しているという話です。実験的な試みです。

地域交流ですが、小学生のお祭りであったり小学生と一緒に活動したり、地域のバレーボール大会への参加をしたり地元のお祭りで神輿を担いでくれといわれれば神輿を担ぐ。地域のためなら何でもやるというコンセプトでやっています。地域にとっては大学生という存在が、大学が篠山には無いという大学生の存在が地域の方にとっては新鮮ではないかと思っております。

僕たちの報告は以上です。7番目のスライドの写真は1年生の写真ですが、来年もより良い活動が出来るように祈っております。ご清聴ありがとうございました。



1

## 活動内容

### ①農業ボランティア

…農作業のお手伝いをする



### ②“にし恋ファーム”

…栽培を体験  
収穫物の販売も



### ③地域交流

…地域イベントの参加、企画



2

## 農業ボランティア

通年の基本活動  
毎週土・日曜に農家さんをお手伝いする

・新しい農家さんからも依頼が！

・今年度は参加者が増加！



3

## にし恋ファーム

遊休農地をお借りし、自分達でも名産の丹波黒大豆の栽培を体験。



4

## 黒枝豆の販売

・大学構内での販売

・枝豆がリタイムトライアルという新たな販売形態



・マルシェ出店や卸し売りでPR

5

## 地域交流

○大人との交流(お祭り・バレーボール大会など)

○子供との交流



「大学生」という存在が田舎の子供にとって新鮮

6



7

## (7) サンセット 12

こんにちは。神戸大学のサンセット 12 です。私たちは日置地区というところでお祭りに参加しています。私たちは神戸大学の農学部に所属する 2 回生が主体となっています。日置地区で 8 月に行われる波々伯部祭りというお祭りと、10 月に行われる日置のお祭りに参加しています。最初は、実践農学入門という農学部の農家さんにお手伝いに行くっていう授業をきっかけに、このお祭りに参加することになりました。去年の履修者の 8 人でだいたいやってます。去年は単位が貰えたんですけど、今年はボランティアというかたちで単位無しでやってます。

具体的な活動として、先ほど申し上げた 8 月の波々伯部祭りの方ですけど、長々と書いている部分は、後程レジュメなどを見ていただければいいと思います。最初、5 番目のスライドは、午前中、地域の方々とお昼を作っている様子ですね。これは、すき焼きをしました。地域の方々と一緒に昼食をいただきながら交流を深めまして、午後になるといよいよ山車を曳くところですね。6 番目のスライドが山車を曳いているところです。こんなメンバーです。波々伯部神社というところで御輿を上げて、すごいハードな仕事 awaits 待っています。最後、夜景がすごくきれいで灯籠が山車に全部付くのですごく夜はきれいです。10 番目のスライドが 10 月に行われる日置のお祭りです。日置のお祭りでは、午前中は日置にて行われる城東味祭りに参加しています。ここでお餅を売ったり、猪汁を売ったりいろいろ特産品を売っています。餅つきもしました。そして午後が御輿を曳いているところです。これはかなり重いので男の人しか曳いてません。夜は宴会に参加させてもらって本当に地域の方がたも私たちもいっしょにお酒を飲んで楽しんでます。

活動成果として 1 つ目が、初めて日置に来た人にその魅力を伝えられたことです。去年の履修者 8 人ぐらいでいまやってるんですけど、その友達とかを呼んで何人か今年は新規で入れて行ったところ、その子たちから「すごい楽しかった。」「来年も行きたいわ。」みたいな声をたくさん頂くことができました。実際 8 月に参加してくれた 2 人も、10 月にも参加してくれて、とても地域貢献に役立ったかなと思っています。

もう 1 つは地元の人々にも喜んでもらったことです。去年は授業で参加したんですけど、授業に参加してすごく楽しかったということが地元の人々に伝わっていて、今年はそのやから戻ってきたという人が割と多くて、お祭りの参加人数が増えたということを知って、私たちもすごく嬉しかったです。私たちも楽しんでいるし、地域の方々にも私たちが楽しんでいることが普及、伝わったのがとても嬉しくて成果になりました。

今年の反省としましては、活動方針がまだ 3 月か 4 月ぐらいに清野先生のもとでできたんですけど、とりあえずまだ完全には活動内容が決まっていなくて試行錯誤しながら 1 年やってきたところです。また連携不足や情報伝達の欠如ということで、1 人に全ての連絡とかを任せてしまって、役割分担がうまく出来ていなくて、もう少し来年は何か考えた方がいいかなと思っています。

今後については、来年もまた今年参加した 8 人で参加したいかなと思っているのと、いつも料理を作っていたり宿を貸していただいたりしていただいている地域の方々に本当にお世話になっているので、来年もなにか恩返しをしたいかなと思います。私たちにできるのは、日置について知らない人々に魅力を伝えることと、担ぎ手の少なくなっている御輿とか山車を曳くことですので、来年は各自がもう少し友達を誘って、今年よりも多くの人数で参加する。サークルにはしないで私たちが運営をしていこうと思っています。ご静聴ありがとうございます。

## <サンセット12 発表資料>

日置地区における祭りを通じた活動について

### 1. 私たちの団体について

私たちは神戸大学農学部に所属する学生団体です。現在は篠山市日置地区周辺で活動をしています。活動内容は主に8月初旬に催される波々伯部祭りと、10月中旬に催される日置地区でのお祭りのお手伝いに入り、日置の人々と大学生との交流を図ることです。現在は8人を主体として活動をしています。

私たちの団体が発足したのは今年の4月になります。元々私たちは「実践農学入門」という農学部の授業の履修者でした。これは各々3人程のグループに分かれ、農家さんのところへお邪魔して田畑のお手伝いをしながら実際の農業について学び、地域との交流を深めるというものでした。授業は年に8~9回程でしたが、この中に団体発足のきっかけとなる2回のお祭りが含まれていました。伝統的で活気のあるお祭りに私たちはすっかり魅了されました。神戸大学地域連携センターの清野さんのサポートを受けつつ、再びお祭りに参加したいという気持ちを持ったメンバーで今年の4月にこの団体を立ち上げました。

### 2. 活動報告

#### ① 波々伯部祭り

波々伯部祭りは祇園祭に縁のあるお祭りで、2日間にわたって行われます。前日の宵宮祭は午前中に幕掛けが行われ、夜にはダンジリヤマと呼ばれる山車の宮入りがあり、宵宮の儀が執り行われます。氏子である8つの集落からそれぞれ一基ずつ8基のダンジリヤマが集結します。例祭当日は午後の神事の後にダンジリヤマの神幸式が執り行われ、その後にキウリヤマと呼ばれる円錐形の曳山が境内に入場し、東西に配置されます。そこで舞台設定をした後、キウリヤマの中でデコノボウと呼ばれる人形戯が行われます。ダンジリヤマは毎年、キウリヤマは3年に1度奉納されます。

このお祭りには、ダンジリヤマの引手として両日ともに参加しました。

参加日程：8月1~2日

参加人数：13人

行程：

<8月1日>

10:00 中立舎（民宿）着

祭りについての説明・集落ごとに分かれる

11:00 波々伯部の自治会館にて昼食の準備

12:00 昼食・交流会

15:30 各集落に分かれ、それぞれの地区で山車の準備

17:00 山車出発

各山車が波々伯部神社に集まる

20:30 山車解散

各自その集落の宴会へ参加する

<8月2日>

8:00 各自の集落へ向かい、山車の準備をする

13:30 山車出発

各山車が波々伯部神社に集まる

祭礼の儀式等を見学

16:30 お祭りを抜け、帰宅



## ② 日置のお祭り（城東味祭り）

このお祭りは、日置地区にある磯宮八幡神社というところで行われます。この神社は大変歴史が深く、その建立は933年と言われています。その後、何度か消失と再建を繰り返し今に至っています。神事を済ませた後、神輿を担いで日置中を回ります。私たちはこのお祭りにも神輿の担ぎ手として参加しました。

また、午前中は城東味祭りという日置で行われる収穫祭に参加しました。たくさんのお店が軒を連ね、獲れたての黒枝豆や猪汁などの地元ならではの料理が味わえます。これには販売や調理の補助として参加しました。

参加日程：10月17～18日

参加人数：18人

行程：



<10月17日>

- 13:00 中立舎（民宿）着  
城東味祭りに参加し各自お手伝い
- 15:00 集会所で地域の方々と食事
- 16:00 宮入り・神事  
神輿を担いで各集落に回る
- 19:30 神輿終了・片づけ
- 20:00 宴会に参加

<10月18日>

- 8:00 城東味祭りに参加し各自お手伝い
- 13:30 宮入り・地域の方々と食事
- 14:30 お宮を出て各集落を回る
- 17:00 神輿終了・片づけ
- 18:00 宴会に参加



### 3. 活動成果

1年間を通じた活動の中で得られたものは大きく分けて2つあります。

1つは篠山市日置地区に来た事がなかった人々にその魅力を伝えられた事です。今回は8月に5人、

10月に10人の友達を誘い一緒にそれぞれのお祭りに参加しました。どちらのお祭りでも楽しかった、また行きたいという声を聞く事ができました。8月に参加してくれた5人のうち2人は10月にも参加してくれました。私たちのSNSの写真などを見て、今年は予定が合わなかったけど来年は行きたい、と言ってくれる人もいました。これは私たちにとって喜ばしい事でした。去年の私たち同様、お祭りを通して篠山の魅力を感じ取ったのだと思います。篠山について知ってもらおうという意味で、これは大きな成果であったと思います。

もう1つは、私たちが祭りに参加する事で地元の人々に喜んでもらえたという事です。10月のお祭りでは、私たちが去年参加したことが話題になり今年の地元の人々の参加人数が増えたと聞きました。「こんなに楽しいんやっただ来年も戻ってこよう。」という大学生の方もいました。また、8月10月ともに「また来年も来てな！」という声もたくさん頂くことができました。お祭りに参加して本当に良かったなと思える瞬間でした。今年は授業で来たわけではないので去年よりも自由に行動することができ、さらに地元の人々との交流も密に持つことができました。この繋がりを絶やさないように来年もしていきたいと思いました。

#### 4. 今年の反省点

今年の反省点としては、具体的な活動方針を決めきらないまま活動をしたことです。元々はもう一度あのお祭りに参加したいという思いから団体を作りましたが、サークルのように後輩を迎えるのか、それとも私たちだけでこれから活動を続けていくかなどの結論を決めきれないまま2回のお祭りに至ってしまいました。もう少しはっきりと見通しが立っていれば、それに向けて宣伝を行うことや計画をたてるなどの対策ができたのだと思います。

また初めてのことばかりで上手く連携が取れておらず、お祭りの方々に情報が伝わっていないという事がありました。今年はほとんどの運営を1人に任せてしまった事が原因かと思います。来年からは役割分担をしてスムーズにお祭りに参加できるよう工夫していきたいです。

#### 5. 今後について

2回のお祭りを終えて話し合い、来年も8人で参加したいという気持ちは変わりませんでした。去年に引き続き今年も地元の方々には本当にお世話になっているので、その恩返しもしたいです。お祭りに行くことで私たちに出来るのは、篠山について知らない人々にその魅力を伝えること、また担ぎ手の少なくなっている山車や神輿を担ぎ、お祭りに貢献することです。そこで、来年は各人がもう少し友達などを誘い、今年よりも多くの参加人数で参加できるようにしたいという結論に至りました。また、サークルにすると引き継ぎが必要となりますが、私たち自身がお祭りに参加したいという気持ちからサークルにはしない方向で活動をしていきたいです。来年は今年の反省をふまえて人数を増やした形でお祭りに参加できればと思います。

<参考文献>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B3%A2%E3%80%85%E4%BC%AF%E9%83%A8%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%B9%B8%E7%A5%AD>

[http://potiko.fc2web.com/comment/kinki/hohokabe/hohokabe\\_3.html](http://potiko.fc2web.com/comment/kinki/hohokabe/hohokabe_3.html)



1

### 1. 私たちの団体について

- ・神戸大学農学部に所属する2回生が主体
- ・篠山市日置地区にて、8月に行われる波々伯部祭りと10月に行われる日置のお祭りに参加
- ・「実践農学入門」という農学部の授業がきっかけとなり、今年の四月に発足
- ・去年の履修者である8人で主に活動している

2

### 2. 活動報告

#### ①波々伯部祭り

波々伯部祭りは祇園祭に縁のあるお祭りです。2日間にわたって行われます。前日の夜にはダンジリヤマと呼ばれる山車の宮入りがあり、宵宮の儀が執り行われます。

例祭当日は午後の神事の後にダンジリヤマの神幸式が執り行われ、その後にはキウリヤマと呼ばれる円錐形の曳山が境内に入場し、東西に配置されます。



3



4



5



6



7



8



9



### ②日置のお祭り

日置地区にある破宮八幡神社で行われる。この神社は大変歴史が深く、その建立は933年と言われている。その後、何度か消失と再建を繰り返して今に至る。この神社で神事を済ませた後、神輿を担いで日置中を回る。

また、予前中は城東味祭りという日置で行われる収穫祭に参加した。たくさんのお店が軒を連ね、獲れたての黒枝豆やし汁などの地元ならではの料理が味わえる。

10



11



12



13



14



15



16

### 3. 活動成果

～その1～

初めて日置に来た人々にその魅力を伝えられた事

～その2～

地元の人々に喜んで貰えた事

17

### 4. 今年の反省

①活動方針の曖昧さ

サークルのように後輩を迎えるのか、それとも私たちだけでこれから活動を続けていくかなどの結論を決めきれないまま2回のお祭りに至ってしまいました。

②連携不足や情報伝達の欠如

初めてのことでばかりで上手く連携が取れておらず、お祭りの方々に情報が伝わっていないということがありました。今年はおんどの運営を1人に任せてしまった事が主な原因であると思われれます。

18

### 5. 今後について

- ・来年も8人で参加したい
- ・お世話になった方々に少しでも恩返しをしたい

私たちに出来るのは...  
 ・日置について知らない人々に魅力を伝える  
 ・担ぎ手の少なくなっている神輿や山車を担ぎお祭りに貢献する



- 各人がより多くの友達などを誘う
- サークルにはせず、私たち自身が活動に参加していく

19



20

## (8) 関西学院大学法学部山下ゼミ 地域づくりプロジェクト

こんにちは。関西学院大学法学部4回生山下ゼミです。山下ゼミ4回生は、2つのグループに分かれておりまして、私たち「子供班」の方から発表に移らせていただきます。

私たち「子供班」の活動目的として、「子育て環境の改善」と「子育て世代のまちづくりへの関心を高める」ことを目的に活動してきました。2014年度から地域への子育て環境の改善や子供の居場所作りにも取り組んでおり、もっと若い世代が子育て世代のまちづくりに対する関心を高めるとともに、就学、就職によって柏原を離れても、また柏原に帰って来たいと思う青少年層の郷土愛を育むことも目指しています。今年度は子育て世代の市民とのワークショップを開催すると共に、地域行事の際に学生主体のキッズスペースの設置やアンケート調査を行い、子育て環境に関する政策提言を取りまとめます。

まずはじめに「ハピネスキッズステーション」について話していきたいと思います。10月と11月、11月は雨天により中止となりましたが、古市場公民館で実施しました。ハピネスマーケットの来場者に休憩場所として利用してもらうと共に、子育て世代の方々に子育て環境の意見を聞くことを行ないました。当日、遊具や文房具を準備して古市場公民館を開放することによって保護者同伴で子供たちの遊び場を提供しました。また、保護者の方々にはアンケートに協力してもらいました。そのアンケートの中で「子育てしやすい環境とは」といったアンケートをさせていただいて、「このように公民館で子供が遊べるように開放されていたらうれしい」というようなアンケート結果になりました。

次にワークショップについて話していきます。11月18日に柏原学習支援センター（ゆめわあく柏原）にて実施しました。その目的として柏原での子育て支援環境の意見交換の場としてワークショップを行ないました。2つのテーマを設定し、保護者の方4～5人と学生1人のグループを3つ作ってそこで話し合い、結論を発表しました。そのテーマの一つとして、「柏原の子育て環境の現状を整理」して、その意見として「保育所に入りづらい」、「小児科、産婦人科が少ない」、「子育て支援に制限がある」といった意見がありました。

2つ目のテーマとして、「子育て環境の理想とする形を考える」ということで、その中での意見では「小児医療の充実」、「コミュニティ施設での託児支援がもっとあればいい」という意見をいただきました。その結果として、「これまで自分の意見を伝える経験が無かったので、いい経験になった」という意見をいただくことによって、親御さん同士の意見交換の場になったのではないかと考えています。

全体のまとめとして、企画として行なったキッズスペース、ワークショップ、それに伴うアンケートによって子育て世代のまちづくり、特に子育て環境に対する意見を知ることが出来ました。現在はこれらの意見を取りまとめ、政策提言として県民局に提出するために作業を行なっています。

引き続きまして「動画班」の発表をさせていただきます。われわれは昨年度2014年度に1年間丹波で活動させていただいて様々な場所に行って、様々な人に出会うことによって私たち自身が感じた丹波の魅力を、我々の周りの人だけでなく、不特定多数の方にも知っていただきたいという気持ちから、Iターン、Jターンの方にインタビューを撮影したり、丹波のすばらしい景色を撮影したものをプロモーションビデオとして作成させていただきました。まだ製作中の段階ですが、そちらの一部をご覧ください。ビデオが完成次第、FacebookやYou tubeなどにアップして拡散していく予定になっています。以上で山下ゼミ全体の発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

**関西学院大学 法学部 山下ゼミ 4年生 子育て支援プロジェクト**

●目次

- ・活動目的
- ・スケジュール
- ・ハピネスキッズステーション
- ・ワークショップ
- ・まとめ

●活動目的

「子育て環境の改善と子育て世代のまちづくりへの関心を高める」

山下ゼミは 2010 年度から柏原中心市街地で学生主体のまちづくり活動を実施してきた。2014 年度からは地域の子育て環境の改善や子どもの居場所づくりにも取り組んでおり、もって若い世代や子育て世代のまちづくりに対する関心を高めるとともに、就学・就職等により離れても帰ってきたいと思う青少年層の郷土愛を育むこともめざしている。

今年度は、①子育て世代の市民とのワークショップを開催するとともに、②地域行事の際に学生主体のキッズスペースの設置やアンケート調査等を行い、子育て環境の改善に関する政策提言をとりまとめる。

●スケジュール

- 10 月 丹波ハピネスキッズステーション 第一回開催 @丹波ハピネスマーケット
- 11 月 丹波ハピネスキッズステーション 第二回開催 @丹波ハピネスマーケット  
ワークショップ @柏原子育て学習支援センター ゆめわあく柏原
- 12 月 フォーラム発表  
県民局への政策提言
- 1 月 (丹波ハピネスキッズステーション 第三回開催 @丹波ハピネスマーケット)  
活動報告会

●ハピネスキッズステーション

<日時・場所>

- 10 月 10 日(土) 古市場公民館にて実施
- 11 月 14 日(土) 雨天により中止

<目的>

「子ども連れのハピネスマーケット来場者に休憩所として利用してもらうとともに、子育て世代の方々から子育て環境について意見を聴く」

<内容>

遊具や文房具を準備し、保護者同伴で子どもたちに遊びの場を提供する。また、保護者の方々にアンケートに協力してもらう。(アンケート結果についてはパワーポイント参照)

<成果>

「子どもを休憩させるキッズスペースが欲しい」という声を基に実施したこともあり、利用者からの反響は良かった。今後もこのような企画が増えて欲しいとの意見ももらっている。単発的な企画で終わらず、企画を引き継いでいけるような団体を探す事が、今後の課題である。

●ワークショップ

<日時・場所>

11月18日(水) 柏原子育て学習支援センター ゆめわあく柏原にて実施

<目的>

「柏原で子育てをされている世代に対し、柏原の子育て環境に関する意見交換の場としてワークショップを行う」

<内容>

2つのテーマを設定し、保護者4～5人と学生1人のグループで話し合い、結論を発表する。

テーマ① 柏原の子育て環境の現状を整理する

テーマ② 子育て環境の理想とする形を考える

●まとめ

企画として行ったキッズスペース・ワークショップ・それに伴うアンケートにより、子育て世代の方々のまちづくり、特に子育て環境に対する意見を知ることが出来た。現在はこれらの意見を取りまとめ、政策提言として県民局へ提出するための作業を進めている。



関西学院大学 法学部 4年生  
山下ゼミ 子ども班

1

- 目次
- ・活動目的
- ・スケジュール
- ・ハピネスキッズステーション
- ・ワークショップ
- ・まとめ

2

活動目的

「子育て環境の改善と子育て世代の  
まちづくりへの関心を高める」

3

ハピネスキッズステーション



4

ワークショップ

テーマ①

柏原の子育て環境の現状を整理する

5

6

テーマ②

子育て環境の理想とする形を考える

まとめ

7

8

ご清聴ありがとうございました。

## 関西学院大学法学部山下ゼミ 動画班

構成人数 8人  
活動地域 柏原を中心とした丹波地域  
活動拠点 関西学院柏原スタジオ  
活動頻度 月1~2回 丹波で動画のネタ集め  
月4回 学校で話し合い、動画の編集作業  
提携団体 ふるさと丹波市定住促進会議

### ・提携団体と行った活動

提携団体様には、動画撮影に協力して下さるIターン・Uターン者の紹介をしていただきました。

### ・活動を始めた動機

2014年度に1年間丹波で活動させていただき、様々な場所へ行き、様々な人と出会い、自分たち自身が感じた丹波の魅力を自分の周りの人間だけでなく、不特定多数の人にも知ってもらいたいという気持ちから動画作成にいたりしました。

### ・活動の成果

本日放映させていただく動画が成果となります。

活動期間が8月から12月であったことから、秋の景色中心になっています。

昨年冬から、動画を作成すると決めていれば、丹波の春夏秋冬をまとめることができていたので、その点については後悔しております。

### ・我々の活動の自慢できる点

私たちの活動拠点は柏原スタジオですが、柏原だけでなく、丹波市を形成している、山南、市島、氷上、青垣、春日の全てを自分たちの目で見て回りました。それにより、丹波市のここにこんな店がある、あそこには桜の名所があるなど、丹波市全体をよりいっそう知ることができました。また、自分たちで運転して見て回ったので、もし誰かに道を聞かれても、だいたいのところなら道案内できるほど道を覚えることもできました。さらに、丹波各地で撮影している際に、地元の方や観光客の方に声をかけていただき、他にもこんな場所があるよ、あそこは桜で有名だけど紅葉もきれいだよ、というように人との交流も持てました。

- ・活動するうえで苦勞したこと、困ったこと

提携団体の方のやり取りを、ほとんどメールでしていたため、お互いに相手の意図が分かっておらず、話がスムーズに進まなかったことです。

また、春日町の雲海を撮影する際、天候条件が揃わなければ撮影できないので何度も足を運び、苦勞しました。

- ・活動を続けていく秘訣

やはり何事も楽しいと思ってやらなければ続けることはできないと思います。まだ自分が知らない場所へ行き、散策してその場所を知っていくことや、現地住民の方と軽い会話をするのが楽しいと感じていました。また、自分が感じた丹波の魅力を少しでも伝えたいという気持ちも影響があったと思います。

- ・我々の思い、希望

我々の動画を見て、少しでも多くの人に、少しでも丹波に興味を持ってもらいたいと思っております。

そこから、さらに観光にこられる方、丹波に移住される方が出てきてくれれば、最高の形であると考えています。

- ・活動のアウトプット方法

Facebook、YouTube等にアップし拡散する予定です。

また、丹波市のHPにも掲載していただく予定となっています。

いつ、どこから、なぜ  
丹波にやってきたのですか？



丹波の魅力はなんですか？



移住する前と現在の  
お仕事について  
教えてください



あなたにとって  
自然とはなんですか？



移住を考えている方に  
メッセージをお願いします



## (9) 県立柏原高等学校 知の探究コース

みなさん、こんにちは。県立柏原高等学校から来ました2年小橋と1年森田です。今日はこのような貴重な時間をいただき、私たち高校生に発表の機会を与えていただき本当にありがとうございます。今日は、「ハイスクールユニシアチブで輝く丹波を！」ということで、私たち柏原高校の地域活性化を目指した取り組みとグローバルな展開と可能性についてお話をさせていただきたいと思っております。

昨年度から柏原高校はスーパーグローバルハイスクールのアソシエイト校として認定されています。ということで、「丹波からTAMBAへ」高校生が提案する地域活性化の方策ということで研究活動を始めました。研究の初期の段階で丹波市や地方が抱える離農の問題や人口流出の問題を知ることになります。

まず私達が目を付けたのは世界農業遺産というものです。これは既に世界25の地域が認定されていて、日本でも5か所が認定されています。世界農業遺産はあまりご存じないと思いますが、これに認定されるためには古くから続く伝統的農業システムの維持と景観の保存、芸能など文化の継承、生物の多様性の維持。こういった条件が満たされていることが必要となります。昨年1年間、今の2年生が1年生の時に研究しまして、これらの条件を丹波も満たしてしまっていて、世界に誇れる伝統農業文化があるということが研究の成果としてわかりました。また昨年度は、この写真(4枚目のスライド)は現在、篠山市に住んでおられます河合雅雄先生をお招きした時の様子です。このほかにも人と自然の博物館の館長である中瀬勲先生など様々な外部講師をお招きしまして、丹波の森構想や丹波篠山層群など様々なことを教えていただきました。また、4枚目のスライド右側の写真は、学年の枠を超えた対話として1年生、2年生を中心にお互いが学んだ場で学んだことを共有し、意見交換を通して地域活性化への対応を考えているところです。その中で一つクローズアップされてきたものが、丹波篠山層群というものです。丹波竜でおなじみの「ティラノサウルス」の化石が発見されたことで一躍有名になりましたが、これについても活用法、情報発信を行っていかうということです。実際に現地へ赴き発掘体験をさせていただきました。6枚目のスライド左側の写真は実際に丹波竜が出たすぐ上のところで、化石の石割体験をさせていただいているところです。足元にある地層から丹波竜の化石が出ました。3日間やったのですが、1日目の午後から丹波竜の出た横の地層をハンマーなどを使って発掘体験をさせていただきました。次に7枚目のスライドは、昨年大きな被害が出ました市島の豪雨災害の現状を視察に行った時の様子です。ご覧のように、まだまだ復興していないところもありますし、実際に現地へ行くことで復興の状況を肌で感じ、自分たちも何かしなければと強く感じました。

また、校外への発信、地域への連携というところでも、色々やっています。8枚目のスライド左側の写真は「丹波教育フォーラム」というところで柏原高校の生徒や地域、丹波市に住んでおられる様々な方と一緒に、これから丹波をどう盛り上げていかうかというところで意見交流をしたりして、話し合っているところです。

このように現在は1年生が「探求Ⅰ」、2年生が「探求Ⅱ」という授業でそれぞれ研究しています。主な研究テーマが9枚目のスライドの下に書いてあるようなものです。そのうち2つ、「地域医療班」についてですが、「柏原病院の小児科を守る会」というところにインタビューしに行ったり、本校の卒業生で医学生である方々と意見交流をしたりしました。

岐阜県可児市まで行って地域医療の最先端を学びに行ったり、丹波を地域医療の最先端の街としていかうと今、研究を進めているところです。

次に「防災班」の活動です。11月8日に市島町の被災地バスツアーのガイドをさせていただきました。バスツアーの後に防災にかかるワークショップを行い柏原高校の生徒が司会を務めてくれました。

12枚目のスライドは先週開催された「丹波竜フェスタ 最新の恐竜研究について2015」に参加した時の様子です。ここでも丹波篠山層群のことについて色々学ぶことが出来ましたが、これからどんどん丹波篠山層群を発信していかうということで発信の必要性を改めて感じました。

最後に「TAMBA地域づくり大学」についてです。丹波に住んでいる市役所の職員の方や地域のNPOの方々など、様々な年代の方々と意見交流をしました。式では私たちが考えた地域活性化策を紹介しました。その活性化策を紹介し

ます。

NO.1「先人の知恵と若い感性を」、「空家を使った交流のきっかけとするよう会」

NO.2「丹波のブランドを活かした6次産業化を目指すグランドカンパニー」

NO.3 日本で最も低い氷上の分水嶺は生物の交わりの場として有名です。それを広告に人を集め、丹波でお見合いをする「ハートキャッチ大作戦」

NO.4 故郷と触れ合う機会の充実、考える力、主体的、創造的に生き抜く力を養う「ふるさと教育」

現在、丹波市はたくさんの課題を抱えています。ふるさと教育をしてたくさんの力を養うことで課題の解決につながると思っています。

今後の私たちの課題として、

1つ目「地域への発信をすること」

2つ目「グローバル人材となることを目標に、現在、交流のある韓国の金海外国語高校をはじめ国際交流をし、国際的な視野を身につけること」

3つ目「単発のイベントではなく丹波のあり方を根本的に考える地域活性化策を考えること」

4つ目「上級生から下級生に伝えるなど、人口が減っても持続できる取り組みを考えること」です。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

**「ハイスクールイニシアティブで輝く丹波を！」**

県立柏原高等学校 SGHアソシエイト事業  
**「地域活性化を目指した取組と  
 グローバルな展開の可能性について」**

県立柏原高等学校 知の探究コース  
 2年 小橋遼太郎  
 1年 森田つかさ

1

**丹波からTAMBAへ**  
 ～高校生が提案する地域活性化の方策～

丹波市の現状

人口の推移

昭和35年～平成22年  
 (5年ごと)

第一次産業従事者  
 平成22年 **9.2%**(全国平均約6%)  
 昭和55年 **19.5%**

2

世界のGIAHS認定地域 ～世界中、大切な自然遺産が眠る場所～

2014年8月現在、世界中では13カ国11地域が認定されており、各国・地域では、伝統的な農業・観光、農業にまつわる文化や生物多様性、農村景観などが学ぶ場として活用・保存されています。

- ・古くから続く伝統的な農業システムの維持
- ・伝統的な景観の保存
- ・芸能などの文化の継承
- ・生物多様性の維持

3

校外への発信、地域との連携

京都大学名誉教授  
河合雅雄先生

学年の枠を越えた対話

4

**丹波篠山層群**  
 中生代白亜紀前期(1億3000万年前)

〔農業に関わる要素として…〕  
 ・炭酸カルシウムを多く含む

その他の地形的特徴

- ・秋～冬の濃霧
- ・四方を山に囲まれる盆地地形
- ・寒暖差の激しさ

篠山盆地

5

高校生「自然史入門セミナー」

6

7

校外への発信、地域との連携

8

## 探究 I

8グループに分かれて丹波について調べる中で、研究の基礎を学ぶ。

## 探究 II

本格的な研究活動。フィールドワークなど。今年度末、地域活性化策を地域に提案。

主な研究テーマ

例) 地域医療、防災・減災、農業、里山、地域活性化策、丹波篠山層群など

9

## 地域医療について



10

## 青少年赤十字市島研修



11

## 「丹波音フェスタ」 最新の恐竜研究2015



12

## TAMBA地域づくり大学



13

## TAMBA地域づくり大学



14

## NO.1

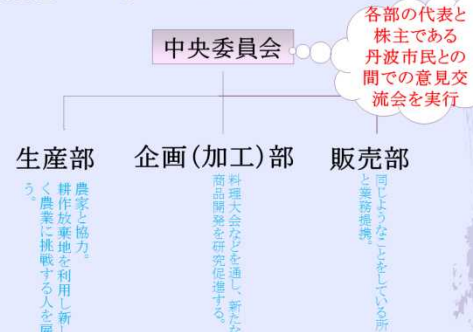
### 100!会

*Insist on opinion*

- ◆ 先人の知恵×若い感性
- ◆ きっかけの場
- ◆ 空き家を使った交流会

15

## NO.2 丹波ブランドカンパニー(株)



16



NO.3

### TAMBAでハートキャッチ大作戦！

氷上の分水嶺は古来から交流の土地

歴史や生物の多様性を広告に、人を集め  
丹波で**お見合い**をしてもらおう！

17

NO.4

### ふるさと教育

～郷土愛を育む～

故郷と触れ合う機会の充実

考える力

主体的、創造的に生き抜く力

18

なぜこれが必要か？

地方の課題

人口減少

離農

限界集落の  
切り捨て



現行教育の問題点

知識詰め込み型

創造力養成の課題

故郷を顧みない教育

19

今後の展開・課題

- ✓ 地域への発信
- ✓ グローバルな展開
- ✓ 根本的な地域活性化
- ✓ 持続可能な取組

20